

会議録

案件	令和6年度第1回こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会		
日時	令和6年8月14日（水）午後1時30分～午後3時00分		
場所	教育委員会会議室		
参加者	会 長	中野 貴博	中京大学スポーツ科学部 教授
	副会長	藤田 雅也	静岡県立大学短期大学部こども学科（美術教育研究室）教授
	委 員	粕谷 浩二	（公財）豊田市スポーツ協会 常務理事
		（欠）藤本 聡	（公財）豊田市文化振興財団 専務理事
		加藤 矢舟	豊田文化団体協議会 会長
		（欠）佐久間政明	地域ぐるみの教育推進委員会委員長
		（欠）三浦 秀一	豊田市小中学校長会 副会長
		八木 健次	豊田市 生涯活躍部長
		中垣 秋紀	豊田市教育委員会 教育部長
	事務局	スポーツ振興課 中野洋介、太田栄一郎	
	学校教育課 岸本勝史、若月めぐみ		
内 容			
1 会長あいさつ			
いろいろな市町村で部活動の地域移行について議論が進んでいる。豊田市においてはしっかりと準備を進めているため、いい事例になり得る。こどもたちのために今後も議論を深めていきたい。			
2（1）豊田市部活動地域移行プラン骨子（案）について 説明			
【委員】	一番の当事者であるこどもや保護者に意見を聞いたことはとても大事だと思う。部活動の地域移行について、令和5年度と比べて認知度、評価がどのように変わったのか、わかる範囲で教えていただきたい。		
【事務局】	保護者は前回約50%（小中学生保護者「知っている」）だったのが今回のアンケートでは81%（小中学生保護者「聞いたことがある」）となっており、認知度については高くなっていると感じている。評価については、前回調査していないので比較できない。		
【委員】	別紙1－2の実施主体について、今後土日・祝日の地域学校共働本部はどうなるのか。こども、保護者の相談窓口、また緊急時などへの対応は可能か。		
【事務局】	地域学校共働本部に部活動コーディネーターを配置し、部活動を行っている時間帯については常駐し対応する予定。		
【委員】	地域学校共働本部としては開いているということか。		
【事務局】	そのとおり。		
【副会長】	別紙1－1のこども・保護者、約6,000件のアンケートを、理解しやすいようにまとめていただきありがたい。肯定的な意見が多かったという一方で、分からない、どちらでもないという意見が3割、地域学校共働本部の体制については5割。この結果は良し悪しで評価するのではなく、今後の取り組みを考えていくうえで重要な情報であると思う。		
	骨子（案）については、意見を聞いたうえで分かりやすくするために修正を加えて		

おり、言葉を変えるだけでかなり印象が変わった。6,000 件のアンケートの意見を聞いて再度考え直し、内容を 10 か所も変更したことは、HP で公開すべき。少なくともアンケートに答えた方々の目に触れれば、次のアンケートでは別紙 1 - 1 の答えは変わり、認知や理解が増えると思う。それを積み重ねていくことでいいものができていく。

【会長】 別紙 1 - 1 のアンケートで「聞いたことがない」と答えた人は、その先の質問で「わからない」や「どちらでもない」、少なくとも「わからない」と答えたと思う。聞いたことがある人に絞れば「良い」ととらえている人は割合としてもっと高いかもしれない。そこを分析することで、今後の周知や理解をどう広めていくべきかが見えてくると思う。

別紙 1 - 2 の骨子（案）裏面 4（3）で学校運営協議会が示されているが、別紙 1 - 1 裏面の体制図には示されていない。運営主体や実施主体と並列ではないと思うが、種目を検討する機関として、体制としては関わるため、明記しても良いかと思った。

骨子（案）については、意見聴取を踏まえ修正されており、言葉も十分考えられていて良い。

【委員】 別紙 1 - 2 の骨子（案）2 実態・ニーズにおいて、ダンスやスケートボードなど現行部活動にない活動等にも興味をもつ子はどれくらいいるのか。もう少し具体的に聞きたい。

【事務局】 やってみたいという活動が多かったのは弓道、バドミントン、e スポーツ、ダンス、軽音、演劇、書道などがある。

【委員】 そういう声にどのように対応するのか。

【事務局】 今後、地域学校共働本部の部活動コーディネーターなどがこどもたちのニーズを把握し、活動の新設を企画することとなる。新たな活動の企画については、場所や指導者についても確保する必要があるため、それも含め、地域ごとに提案できる仕組みを考えている。

【会長】 通常の部活動ではなかった「体験」を重視した活動はあり得るか。

【事務局】 あり得る。複数の活動への参加、週替わりでの活動参加等のこれまでとは違う参加の仕方があっても良いと考えている。最終的に企画するのは地域となるため、そういうことができるということをしっかり例示等で示していく。

【会長】 複数のスポーツをやることは海外ではごくごく当たり前。日本ではあまりない。しかし、これからは進んでいくと思う。

【事務局】 別紙 1 - 2 の骨子（案）3 の視点 1 「こどもファースト」のポイントの 4 点目、こどもの選択肢拡大に資する柔軟な運営の例にあるとおり、体験型活動や小学生が参加できる仕組み、合同部活動への参加など、制限をするのではなく、自由度が高い仕組みをつくっていく。

【委員】 別紙 1 - 1 のアンケートにおける体制の理解が低い原因として、地域学校共働本部の活動が理解されていない状況があると思われる。体制や役割が分かるようにしっかり議論すべき。

(2) 研修プログラムについて 説明

【委員】 地域移行で一番心配しているのは指導者の関係。人数の確保や質の問題もある。その対策としての研修プログラムを策定予定であると思うが、指導者にどこまでの教育的意義に基づいた指導を求めるのか。今までの学校部活動には、技術だけでなく、豊かな人間性や社会性などを教育する役割もあった。

【事務局】 文科省も人間を育てるという点で、教育的な意義の継承を重視しており、学校教育で培ってきたものを地域指導者の方にも継承していくことが持続可能な活動になると考えている。伝え方が難しい面もあるが、教員が持っている知見を研修プログラムにできるだけ反映させるようにしていきたい。

【事務局】 基本的な考え方はプラン骨子にもあったが、勝利至上主義に陥らず、生涯スポーツの視点に立ち、これまでも教員が大事にしてきた部分を継承するということは、プランの中にしっかり落とし込んである。

【委員】 技術指導という面では地域指導者のほうが優る面もあるが、人間形成や教育面では劣る部分も多いと思うので、求めるものを整理した上で、研修プログラム含め何らかの対策を講じてほしい。

【会長】 資質や能力だけを伝えても、一般の方には伝わりにくい。具現化して伝えてほしい。

【委員】 研修内容についてはどこかに出典があるのか。

【事務局】 ガイドラインや有識者の意見を参考にしながら独自に考えたもの。

【委員】 活動概要は大事なところ。しっかり理解してほしいので、もう少し強調できると良い。

中学生の心身の発達で、女性特有の配慮とあるが、性別に関わらず「性別による体格の違いや配慮すべき具体的事項を学ぶ」と修正してはどうか。

苦情や相談対応についての研修は考えていないか。

【事務局】 今でも学校にいろいろなご意見や相談があり、対応を一律に研修で伝えるというのは難しいと考えている。そういった意味で、地域クラブ活動中は部活動コーディネーターを常駐させ、軽微なものから様々な問題に対応する。こどもや保護者からの相談を受けることはもちろん、指導者の相談窓口としての役割も果たしていきたいと考えている。

【委員】 スポーツ少年団の活動においても様々な苦情がある。地域クラブ活動でも様々な意見や苦情が想定されるため、対応策をしっかり準備しておくとう良い。

【委員】 地域指導者は人柄や指導力などを総合して採用する必要があり難しい面もあると思うが、採用方法についてもう少し具体的に教えてほしい。

【事務局】 今は学校で面接し、校長が「この人なら」という方を採用している。今後も面談を経て採用することを考えている。面接者は今後検討する。

【委員】 犯罪歴の考慮など、十分配慮してほしい。

【副会長】 2つの研修があり、1つはオンデマンドでいろいろな視点からなるべく端的に指導者の方が研修受講できるよう、よく考えられている。研修動画については、事前に本協議会の委員が内容確認した上で編集できればより良いものができると思う。また、研修動画は、骨子や指導方針に対応していることが大切。こどもが地域の中でつながり、生涯にわたって活動を続けることで、やがてはこどもたちが地域で指

導者になっていくという循環が、目指す姿として強調されると良い。

指導力向上研修についても発展的な研修で素晴らしい。意見交換会で指導者同士が意見を交換できることはスキルを学ぶ上でも大切だと思う。こういった形で進めていくことを市民にも知ってもらい、いろいろな声を聞きながら、研修内容に反映していったほしい。

【委員】 予定している講師の候補はあるのか。

【事務局】 意向確認はしていないが、候補者はいる。

【委員】 スケジュールは8月から9月で講師の決定とあるが、いろいろな声を聞いて間違いないように進めてほしい。

【会長】 現場での指導体制は、こどもの人数によって変えるのか。

【事務局】 現在は2人以上が望ましいとして運用しているが、人数によっては補助者やボランティアを含めそれ以上の配置も考えていく。

【会長】 研修を受けた証明があると良い。また、指導力向上研修について、指導年数によって異なる内容の研修が行えると良い。

3 その他（進捗状況及び今後の展開について） 説明

【会長】 人材バンクについては県が設置しており、全ての市町の要望に対応するのは難しいと思う。理想は市独自で設置し、必要な情報や機能を自由に設定できると良い。モデル事業の実施にあたっては、保護者にとって相談窓口がどこか分からなくなることが起こり得る。丁寧に事例を検証してほしい。

【副会長】 豊田市版の人材バンクができると豊田市の実情に合った指導者確保ができると思うので進めてほしい。

【委員】 モデル校が中心部・南部・山間部とあるが、3校はどこか。

【事務局】 崇化館中学校、前林中学校、稲武中学校に打診している。

【委員】 学校施設の活用に向けた準備において、学校施設開放は対象外なのか。

【事務局】 そのとおり。

【会長】 トラブルやクレームなどの対応窓口は地域学校共働本部で良いか。今までは指導者が教員であったため分かりやすかったが、今後は相談・意見をする場合のフロー図が必要。

【事務局】 詳細プランの中で、フロー図については作成しようと考えている。基本的な窓口は地域学校共働本部となるが、状況や内容によっては市に直接ということもあり得るかと思う。

【副会長】 研修プログラムでの表現について「中学生期」という言葉は正しくないため「中学生」が良いと思う。

【委員】 協議会開催にあたっては、なるべく早く日程調整をし、全員が参加できるよう配慮してほしい。

以上